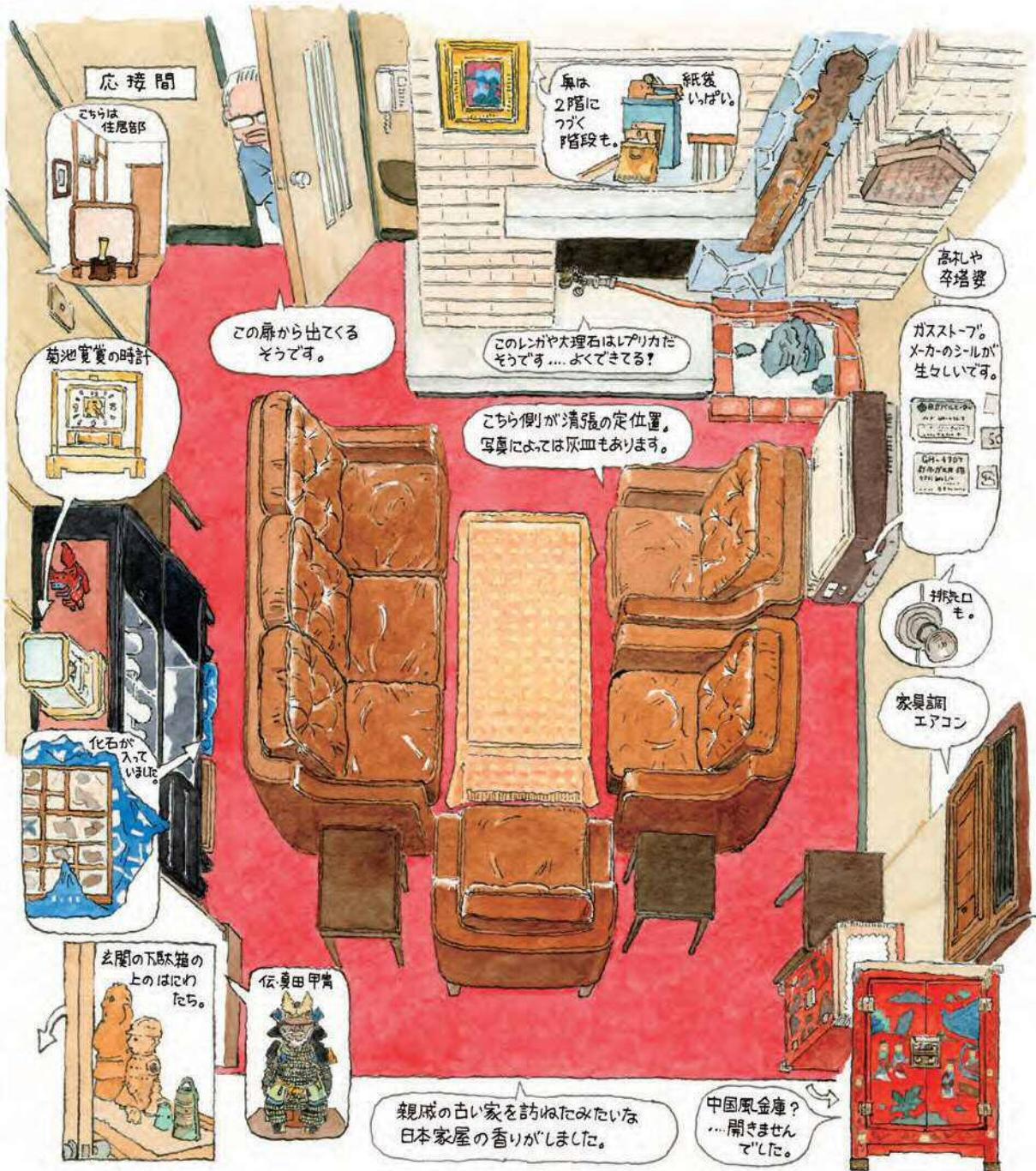


# 松本清張記念館

◆館報◆  
2018.8  
第58号



## 目次

開館20周年関連	2
「砂の器」シネマ・「ンサーント	3
企画展「清張オーディュ展」	4
20周年企画あふれる想いを	5
清張作品総選挙結果発表	5
松本清張研究会 第38回研究発表会	6
第21回松本清張研究奨励事業募集	7
友の会活動報告	7
トピックス	8

**モリナガ・ヨウの  
「探訪・松本清張記念館」**

開館20周年記念事業特別記念  
ルポルタージュ

今回、表紙を飾った絵は、イラスト・ルポの名手、モリナガ・ヨウ氏によるものです。これは、当館の展示「再現家屋」を、特別に取材していただき、制作をお願いしたものです。

ガラス越しに見つめるだけでは、ちょっとわからないような細部について、詳しい説明やエピソードが盛りだくさん。いくら見ても飽きることのない、モリナガワールドをお楽しみください。

# 松本清張記念館 開館20周年

MATSUMOTO SEICHO MEMORIAL MUSEUM 20th ANNIVERSARY

## 開館20周年記念トークショー

TVプロデューサーと脚本家が語る  
清張ドラマの世界



和気あいあいの内山聖子さん（左）と浅野妙子さん（右）

20周年記念事業の第一弾として、6月21日（木）に、北九州芸術劇場 小劇場にて、テレビ朝日のプロデューサー内山聖子さんと、脚本家の浅野妙子さんによるトークショーを行いました。人気ドラマを手掛けるお二人とあって、定員を大幅に上回る申込みがあり、抽選で外れた方には申し訳ありませんでした。

当日は、お二人が制作に携わったドラマ『霧の旗』から、北九州市内でロケを行った場面を5分間ほど流し、ドラマのときの話を聞いていただきました。撮影をしていると地域の方々が差し入れを持ってきてくれたという温かいお話や、キヤステイングに苦労した作品だったということを明かしてくださいました。

また、どういう清張作

品が好きですか」という司会者の問いかけにたいして、浅野さんは「世の中の

片隅で生きている人を取り上げた話やせつない話が好き」ということで『おくから』の声を、また、内山さんは、「派手な悪女が

出てくる派手な話が好き」ということで、『疑惑』と『黒革の手帖』を挙げられました。

その後も、それぞれに手掛けたドラマの裏話や、清張作品はドラマにするときに登場人物の誰を主人公としても成り立つという話、内山さんと米倉涼子さんが一人で北九州に来た時の話など盛りだくさんで、あつという間の90分間でした。



会場の様子

## ●松本家より寄附金授与●

記念館の開館20周年に伴い、松本家よりご寄附をいただきました。5月16日に北九州市役所で贈呈式を行い「記念事業などの文化事業に役立ててほしい」と松本陽一さんから北橋市長に寄附金が手渡されました。



贈呈式にて

西日本初!!

# 「砂の器」シネマ・コンサート開催!

シネマ・コンサートとは、オリジナル映画のセリフや効果音はそのままに、音楽部分のみをフルオーケストラが生演奏するもので、今回、満を持して不朽の名作「砂の器」を上映します。

日 時 11月25日(日) 14:00開演

会 場 北九州芸術劇場 大ホール

演 奏 九州交響楽団

チケット S席5,000円、A席(3階席)3,800円  
(全席座席指定、未就学児入場不可)

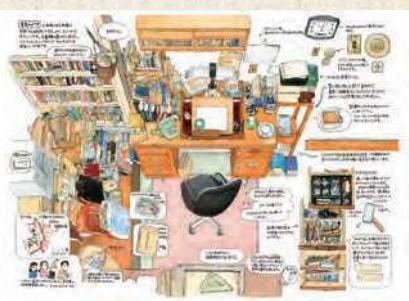
販 売 ・松本清張記念館ミュージアムショップ(9:30~17:30)  
・九響チケットサービス／TEL 092-823-0101(受付時間 平日9:30~17:30)



お問い合わせ先 北九州市立松本清張記念館事務局 TEL 093-582-2761 FAX 093-562-2303

## イラストレーターのモリナガ・ヨウさんによるイラスト・ルポ

表紙にも掲載しておりますが、イラストレーターのモリナガ・ヨウさんに、記念館再現家屋内に特別に入っていただき、イラストによるルポルタージュを描いていただきました。20周年記念事業のPR紙として、市内文化施設や記念館で配布しております。細部まで、見ごたえのある内容ですので、見かけた際には、お手にとってゆっくりご覧ください。また「清張オマージュ展」の図録にも掲載しております。こちらも保存版です!





20周年  
記念企画

# あふれる想いを… ⑥

今回は、記念館建設当時、株式会社トータルメディア開発研究所で展示に携わられた山口廣喜さんに記念館にお越しいただき、インタビューさせていただきました。

建設前の松本家のお写真などを見せていただきながら、当時のお話を伺いました。

**山口さんは記念館の建設当時どのようなお仕事を担当されていたのですか**

松本清張記念館の建設が決まって、基本計画の時から展示設計までは展示全体のプロデューサーとして、展示制作では住居の一部再現、書斎の復元についての担当プロデューサーとして携わりました。

**住居の一部を東京から遠く離れた北九州に再現するというのは本当に大変だったと思います。そのときのお話を聞かせてください。**

浜田山の松本邸に当時の担当者たちが何度も足を運びました。最初に伺ったときにまず書庫のボリュームに圧倒され、ここから清張さんの作品の大半が生み出されてきたんだなという感動を感じました。書斎と応接間と書庫を再現することが決まってから、再現家屋を建物の中にどうやって納めるかという話になり、建築設計の宮本先生が、作品のエネルギーが湧き上がって、広がっていくというイメージで、記念館の壁や屋根を少しだけ外に広がらせたんですね。少し丸くしたというか。(ちょっと見ではわからない程度ですが,)壁も屋根も少し膨れた感じになっています。

**当時、苦労した話や失敗談など今だから話せる話がありますか**

今だからというわけではないですが、大きなプロジェクトだったので、たくさん的人が関わっていました。職種の違う担当



者たちなので、それぞれ意思の疎通を図るのが結構大変でした。ここで説明した話を、別の場所にも説明に行くというようなことがけっこうありました。

**この記念館の仕事に携わったことで得たものがありますか**

自分の仕事人生の中でも代表的な仕事ですし、思い出に残る貴重で有意義な体験でした。

**当時のエピソードなどありましたら教えてください。**

あの当時、何度も東京で打ち合わせをしていました。ちょうど地下鉄サリン事件があった頃で、打ち合わせが1日2日ずれていたら、ちょうど乗り合っていたかもしれませんでした。

**今の記念館を見て、開館当時との違いとか思うことはありますか**

基本的には、ほぼ変わっていないですね。あの頃のままです。ただ、施設は20年経ったなという感じはありますね。設備はやはり20年もすると老朽化しますから、更新が必要になりますね。照明など今ではLEDがありますし、そのほか映像機器などの部分でも、時代にあわせていくと良いとおもいます。

**最後に、今後の記念館に向けて一言お願いします。**

今後は、新たなファン層の開拓が必要ですよね。時代が変わると物事の見方が変わることもあるので、古いことが逆に新しく、これから時代にマッチすることもきっとあると思います。若い世代に対するアプローチを変える必要がありますよね。それを探っていきながら、変わらないまま残すべきところはきちんと活かしていくことも大切だと思います。

お話を伺いしたあとで、改めて、記念館の壁を外から眺めてみました。確かに、少し丸みを帯びていて、中でエネルギーが湧き上がっているようなイメージを感じることができました。

## 清張作品総選挙の結果発表!!

2月1日から開催していました

「開館20年の軌跡展」において募集しておりました、清張作品総選挙の結果を発表します。

**1位 砂の器**

**2位 点と線**

**3位 黒革の手帖**

となりました。4位は同率で『或る「小倉日記」伝』と『ゼロの焦点』、6位は『日本の黒い霧』7位は同率で『けものみち』『地方紙を買う女』『霧の旗』『鬼畜』となっています。なお、投票いただきました方の中から抽選で10名様に記念館グッズをご送付いたします。該当者には発送をもってお知らせいたします。



元株式会社 トータルメディア開発研究所  
チーフプロデューサー

**山口 廣喜 氏**





